

池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1999年度

2000年3月

池田市教育委員会

序 文

池田市は大阪府の北西部に位置し、五月山の緑、猪名川の水の流れに囲まれています。このような自然の豊かな環境の中、人々が先史の時代から営み始めています。

近年はこの地も、陸・空の交通の要衝として、また、大阪のベットタウンとして開発が進み、大きく発展してまいりました。

しかしながら、このような開発、発展とは裏腹に、我々の祖先が伝え残してきた文化遺産や自然が破壊され、かつての面影をしのぶことができないほど様がわりてしまったことも事実です。祖先から受け継がれてきた文化遺産を現代生活に反映しつつ、また、後世に伝えて行くことが我々の義務と考えております。

この報告書は、上述した状況の中、危機に面している埋蔵文化財について、国の補助を受けて実施した発掘調査の概要報告であります。本書が文化財の保存と理解役立てば幸いと存じます。

なお、調査の実施にあたっては多くの御教示、御助言をいただいた諸先生並びに関係機関をはじめ、土地所有者、近隣住民の方々より文化財保護に対して、格別の御理解と御協力をいただきました。心より感謝と敬意を表し、厚く御礼申し上げます。

平成 12 年 3 月

池田市教育委員会

教育長 長江 雄之介

例　　言

1. 本書は、池田市教育委員会が平成11年度国庫補助事業（総額1,000,000円、国庫50%）として実施した埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 本年度の調査および期間は下記のとおりである。

池田城跡第40次	池田市建石町1574-5	平成11年 6月14日～ 6月17日
池田城跡第41次	池田市建石町1954-2	平成12年 2月28日～ 3月 3日
宮の前遺跡第31次	池田市石橋4-32-48	平成11年12月15日～12月17日
3. 調査は、池田市教育委員会生涯学習部社会教育課文化財担当が実施し、中西正和が現地を担当した。
4. 本書の執筆・編集は中西が行った。また、本書の製図にあたっては野村大作・辻美穂の協力を得た。
5. 本書で使用する土層の色調は、『新版標準土色帖』（農林水産技術会議事務局監修、財團法人日本色彩研究所 色票監修）による。
6. 調査の進行にあたっては、施主並びに近隣住民の方々に深謝なるご理解、ご協力をいただいたことに対し、深く感謝の意を表する次第である。

目 次

I	歴史的環境	1
II	池田城跡発掘調査	5
	はじめに	5
	池田城跡第40次発掘調査	7
	池田城跡第41次発掘調査	7
III	宮の前遺跡発掘調査	
	はじめに	9
	宮の前遺跡第31次発掘調査	10

図 版

図版 1 池田城跡第 40 次発掘調査

- トレンチ全景（北から）
- トレンチ全景（北西から）

図版 2 池田城跡第 41 次発掘調査

- トレンチ全景（北から）
- トレンチ全景（北西から）

図版 3 宮の前遺跡第 31 次発掘調査

- トレンチ全景（西から）
- トレンチ全景（北東から）

挿 図 目 次

I 歴史的環境

第1図 宮の前遺跡出土石棒	1
第2図 遺跡分布図	2
第3図 池田城跡下層竪穴式住居跡	3

II 池田城跡発掘調査

第4図 池田城跡主郭部建物跡	5
第5図 調査地位置図	5

池田城跡第40次発掘調査

第6図 レンチ位置図	6
第7図 レンチ平・断面図	7

池田城跡第41次発掘調査

第8図 レンチ位置図	7
第9図 レンチ平・断面図	8
第10図 池田城跡縄張り図	8

III 宮の前遺跡発掘調査

第11図 調査地位置図	9
第12図 レンチ位置図	10
第13図 レンチ平・断面図	10

I 歴史的環境

池田市は、大阪府の西北部に位置し、東西 4.1km、南北 9.2km の南北に細長い市域を有している。その位置は、西摂平野の北部、丹波山地に源を発する猪名川が北摂山地を分断して平野部に出たところにあり、古くから谷口集落として、大阪と丹波、能勢地方の物資集散、文化交流に中心的な役割を果してきた。

池田市の地形をみると、市域のほぼ中央に五月山塊が占め、それより北には、北摂山地および余野川によって形成された沖積平野が広がっている。また、五月山より南には、標高 50~100m の緩やかな五月山丘陵が広がり、更に南側には、猪名川によって形成された広大な沖積平野が広がっている。このような自然環境の中、人々は旧石器時代から生活を営んでいたことが近年の発掘調査で明らかにされている。

旧石器時代

現在のところ旧石器時代に関する遺跡は少なく、遺物が出土した遺跡としては、伊居太神社参道遺跡、宮の前遺跡（螢池北遺跡）、宮の前西遺跡が挙げられるが、遺構に関しては未確認である。

伊居太神社参道遺跡は標高約 50m の五月山塊西端部に位置し、明治年間から石器が採集され、その中に少量であるがナイフ形石器、尖頭器等の旧石器時代に比定されるものが認められている。宮の前遺跡では、昭和期から旧石器が収集され、また、発掘調査では、昭和 61 年度の大坂府教育委員会や平成元年度の豊中市教育委員会による螢池北遺跡で国府型ナイフ形石器が出土している。また、宮の前遺跡に隣接する宮の前西遺跡からは翼状剥片 1 点が採取されている。

縄文時代

五月山丘陵に位置している遺跡では、上述した伊居太神社参道遺跡で、縄文時代のサヌカイト製の石鎌、京中遺跡ではサヌカイト製の石鎌・石匕が採取され、近隣の畠ではサヌカイト製の尖頭器が採集されている。また、近年の発掘調査においては、池田城跡下層からサヌカイト製の石鎌、晚期の生駒西麓産突帯文土器が出土している。一方、南部の台地に位置する神田北遺跡では石鎌・石匕、宮の前遺跡では石棒が採取されている。また、豊島南遺跡で後期から晚期の土器が出土している。しかし、出土した土器は少量で、また、遺構は検出されておらず、縄文時代の集落等の規模・性格等は明らかでない。

弥生時代

弥生時代前期の遺跡としては、五月山北麓に位置する木部遺跡が挙げられる。木部遺跡は工事中に発見された



第1図 宮の前遺跡出土石棒



- | | | | |
|------------|---------------|---------------|----------------|
| 1. 跛ヶ飛遺跡 | 2. 古江古墳 | 3. 古江北古墳 | 4. 吉田遺跡 |
| 5. 古江古墳 | 6. 木部遺跡 | 7. 木部1号墳 | 8. 木部2号墳 |
| 9. 木部桃山古墳 | 10. 愛宕神社遺跡 | 11. 伊居太神社参道遺跡 | 12. 姫三堂古墳 |
| 13. 姫三堂南古墳 | 14. 池田城跡 | 15. 池田来白山古墳 | 16. 五月ヶ丘古墳 |
| 17. 鈴塚北遺跡 | 18. 善浦1号墳 | 19. 善海2号墳 | 20. 石積庵寺 |
| 21. 新橋西遺跡 | 22. 煙有舌尖頭型出土地 | 23. 京中遺跡 | 24. 夏湖池遺跡 |
| 25. 猪田塚古墳 | 26. 鈴塚古墳 | 27. 鈴塚南遺跡 | 28. 狐冢古墳 |
| 29. 石橋古墳 | 30. 二子塚古墳 | 31. 禅城寺遺跡 | 32. 宇保猪名津彦神社古墳 |
| 33. 宇保遺跡 | 34. 神田北遺跡 | 35. 豊塚古墳 | 36. 門田遺跡 |
| 37. 神田南遺跡 | 38. 天神遺跡 | 39. 豊島南遺跡 | 40. 住吉・宮の前遺跡 |
| 41. 宮の前遺跡 | 42. 待兼山遺跡 | 43. 塩塚 | |

第2図 遺跡分布図

遺跡で本格的な調査がされていないため、詳細は不明である。

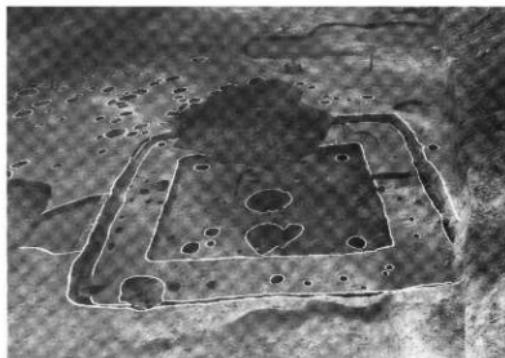
しかし、弥生時代前期から後期の土器が出土しており、池田市内では唯一弥生時代全般を通じて営まれた遺跡である。弥生時代中期においては、台地上に位置する場所で遺跡が現れるようになる。宮の前遺跡は昭和43年・44年に中国縦貫自動車道建設にともない、大規模な発掘調査がなされ、方形周溝墓、竪穴式住居跡、土墳墓等の遺構が多

数検出されている。また、宮の前遺跡から西へ約1kmに位置する豊島南遺跡では方形周溝墓が検出され、宮の前遺跡との関連が注目される。後期に入ると、宮の前遺跡、豊島南遺跡は消滅し、かわって、五月山の丘陵上に位置する池田城跡下層、鼓ヶ滝遺跡、京中遺跡、愛宕神社遺跡等の遺跡が現れる。池田城跡下層では平成3年の調査において、ベット状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。また、台地では神田北遺跡において、竪穴式住居跡、土坑が検出されているが、全体的に後期に入ると集落は五月山の丘陵に散らばり、小規模化する。

古墳時代

池田市内に残る古墳時代前期に築造された古墳は、池田茶臼山古墳と娘三堂古墳が挙げられる。この2つの古墳の主体部は共に竪穴式石室である。池田茶臼山古墳は五月山塊より派生する丘陵の鞍部に築造された全長62mの前方後円墳で、葺石、埴輪列が検出されている。一方、娘三堂古墳は池田茶臼山古墳より北西約500m離れた五月山中腹に位置する径27mの円墳で、石室内からは画文帯神獸鏡が出土した。また、平成元年度の調査の結果、同一の墓壙内に竪穴式石室と粘土櫛が存在することが確認されている。古墳時代中期に至ると高塚式の古墳はなくなり、かわって、小規模な低墳丘古墳が宮の前遺跡、豊島南遺跡で見られるようになる。古墳時代後期では善海1・2号墳、木部1・2号墳、木部桃山古墳、須恵質の陶棺を持つ五月ヶ丘古墳のような単独、あるいは2~3基を一単位とする小規模な古墳が現れるが、群集墳は形成されない。しかし、一方で、巨大な横穴式石室を有する鉢塚古墳や前方後円墳の二子塚古墳が築造されており、この地域の古墳の中でも、異質の存在である。

古墳時代の集落遺跡としては、古江遺跡、木部遺跡等で須恵器や土師器が出土しているが、これらの遺跡では、遺構の詳細は判然としない。豊島南遺跡では布留式の土器を伴う焼失住居が検出され、現在のところ、市内において古墳時代前期の集落遺構が確認された唯一の遺跡である。中期に入ると少しではあるが、検出遺構も増していく。宮の前遺跡では竪穴式住居跡が検出されており、また、豊島南遺跡では竪穴式住居跡、溝が検出されている。



第3図 池田城跡下層竪穴式住居跡

歴史時代

集落遺跡としては、宮の前遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡が検出されおり、豊島南遺跡、神田北遺跡においても奈良時代の掘立柱建物跡等が検出されている。寺院跡としては白鳳・天平時代の瓦が採取された石積廃寺があるが、未調査のため詳細は明らかではない。中世では神田北遺跡で掘立柱建物跡が検出されており、後白河院領として開発が推進された呉庭荘と関係するものとも考えられる。

室町時代から戦国時代にかけて、国人の池田氏が豊島郡一帯の政治、経済を掌握するようになる。その池田氏の出自の詳細は明らかではないが、応仁の乱ごろから摂津守護細川氏の被官として勢力を拡大させていくが、永禄11年(1568)織田信長の摂津入国により、池田氏は降伏を余儀なくされ、ついには、元家臣荒木村重によって、その地位を奪われることになる。池田氏の居館であった池田城は、五月山塊から南方へ張り出した台地上の南麓に位置し、現在でも主郭は土塁や空堀が良好に残る。昭和43・44年に主郭部の一部が調査された際、礎石を伴う建物跡や枯山水様の庭園跡が検出され、また、平成元年度から平成4年度の調査では虎口、建物跡、小規模な石垣、内堀、埠列建物跡等を確認している。

参考文献

- 坂口重雄「地形と地質」『池田市史』各説編 1960年
- 富田好久「考古学上に現れた池田」『新版池田市史』概説篇 1971年
- 橋高和明『原始・古代の池田』池田市立池田中学校地歴部 1985年

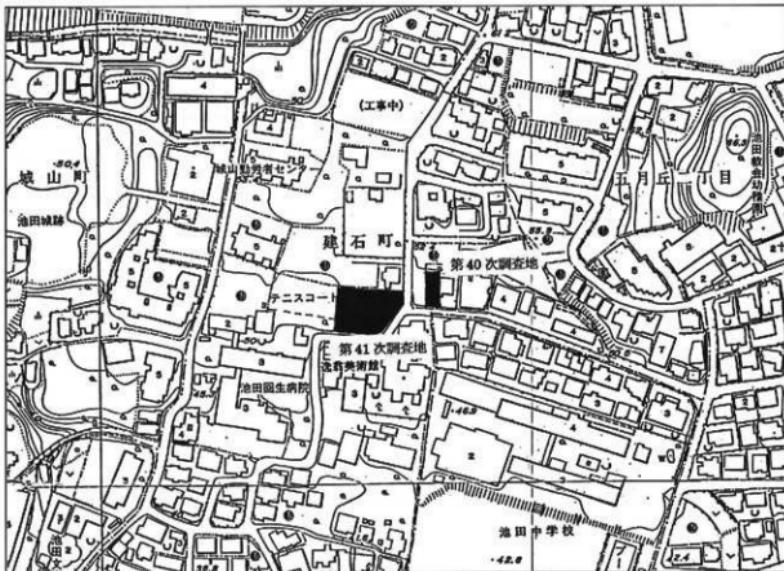
II 池田城跡発掘調査

1. はじめに

池田城は、池田市の城山町・建石町一帯に位置し、戦国期を中心とする国人池田氏の居城で、五月山から張り出した標高50mを測る台地の西縁辺に立地している。その場所からは、眼下に旧池田村を望むことができる。また、丹波山地から大阪湾に流れ込む猪名川、大阪と能勢地方を結ぶ街道を一望することもでき、そのことから、池田城は当時の交通の要衝に選ばれていたことが判る。池田城を居城とした国人池田氏の出自についての詳細は明らかではないが、14世紀中頃の文献からその名が散見されるようになる。しかし、当時の池田氏の動向は不明な点が多い。15世紀後半頃以降、摂津守護細川氏の被官として、幾度かの落城を経験しながらも、莊園經營や高利貸經營により勢力を伸ばし、摂津の国人の中でも有力な地位を得るようになった。しかし、永禄11年(1568)織田信長による摂津入国に際し、降伏を余儀なくされ、信長の支配下となる。



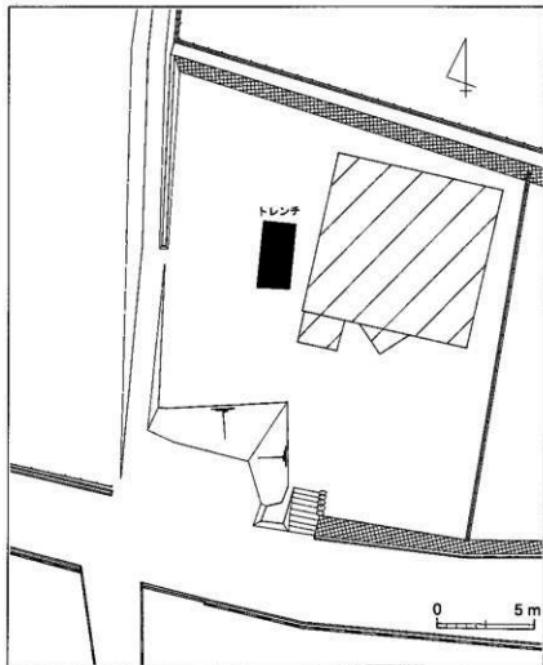
第4図 池田城跡主郭部建物跡



第5図 調査地位置図

その後、元家臣であった荒木村重によって城を奪われ、そして、池田城は村重の有岡城入城に伴い、政治・経済支配の拠点としての役割を終えることとなった。

池田城跡の主郭部は、現在でも土塁と空堀が良好に残り、当時の面影を少しは窺わせるが、城全体の構造について不明な点が多く残っていた。昭和43、44年に主郭部の一部を対象に発掘調査が実施され、建物跡に伴う礎石、石組の溝、中世城郭では珍しい枯山水の庭園跡、落城に伴う焼土層等が検出された。また、平成元年～4年に実施された主郭部の発掘調査では、排水のための暗渠を埋設する虎口、礎石や一部瓦を伴う建物跡、石組の溝、小規模な石垣、主郭内に設けられた内堀、倉庫と考えられる博列建物跡等が検出された。一方、大阪府教育委員会や池田市教育委員会による主郭周辺の発掘調査では、主郭部の南方約100mの位置で大手口が存在することや空堀が幾重にも巡らされていることが判明しており、少しずつであるが城の全容が解明しつつある。また、池田城以前の時代についても明らかになりつつあり、昭和60年以降の大坂府教育委員会による調査では縄文時代晩期の土器、弥生時代後期の竪穴式住居跡、古墳時代中期の土坑、奈良時代の木棺墓が検出されており、また、平成3年度の池田市教育委員会による発掘調査では、庄内期のベット状遺構を伴う竪穴式住居跡が検出されている。



第6図 トレンチ位置図

2 池田城跡第40次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市建石町1574-5において、個人住宅新築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の東端に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地の中央部にあたる。調査面積は6m²である。

池田城跡は近年の発掘調査、レーダー探査などにより、城の外郭などが判明しつつあり、本調査地西側に堀が南北に通じていると考えられている。そのことを念頭におき、調査を実施した。

調査地の基本層序は第1層表土、及び、盛土、第2層暗赤褐色灰色シルトである。第2層以下の層序は工事の関係上深く掘削できず、不明である。

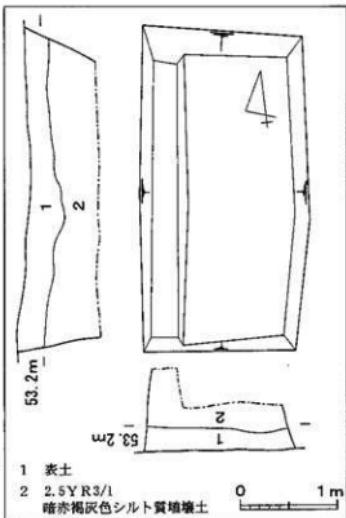
第2層から遺構、出土遺物等は検出できなかった。

地山が確認されなかったことから、調査地一帯は堀の可能性もある。

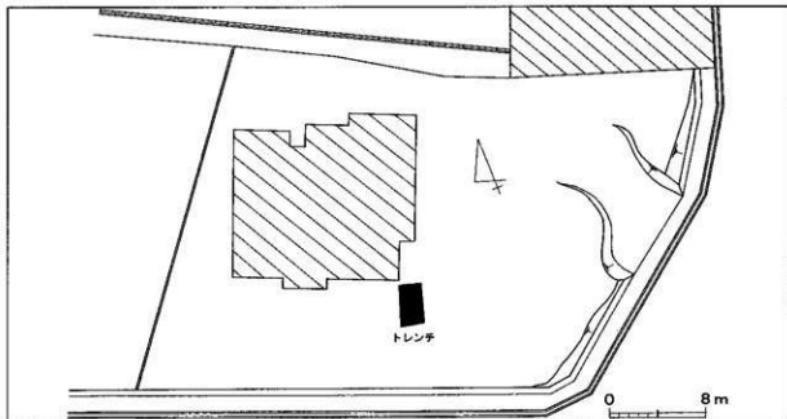
3 池田城跡第41次発掘調査

調査の概要

発掘調査は池田市建石町1554-2において、個人住宅新築工事に先立ち実施した。調査地は池田城跡の東端に位置しており、池田城が立地する五月山から張り出した台地の中央部にあたる。



第7図 トレンチ平・断面図

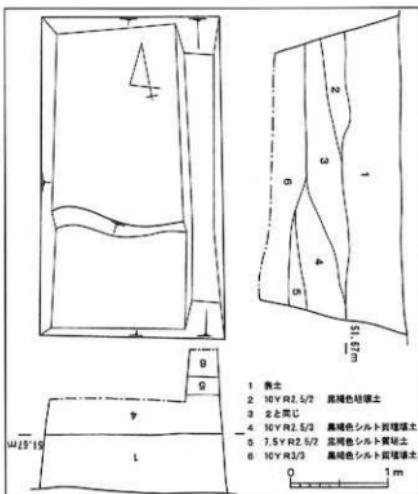


第8図 トレンチ位置図

調査地西側約50mの場所からは池田城に伴う掘立柱建物跡、また、調査地の東・南側には堀があることが今までの調査で確認されている。今回の調査は堀の確認に主眼をおき実施した。調査面積は6m²である。

基本層序は第1層表土、及び、盛土、第2層黒褐色の粘質土、第3層暗褐色の粘質土で、表土より150cm近く掘り下げても地山の検出には至らなかった。

調査の結果、各層から検出遺構はないが、第2層以下の層からは土師皿及び、若干の弥生土器が見つかっている。しかし、小片ばかりで図化できるものはなかった。土層は若干あるが南に向かって傾斜しており、調査地一帯は堀の可能性もある。



第9図 トレンチ平・断面図



第10図 池田城跡縄張り図

池田城跡の発掘調査は今までの41回の調査によって、城の形態が徐々にではあるが、判明しつつある。池田城が立地する台地は北側に杉ヶ谷川よってできた谷、西側は台地と平野部にできた崖を利用し防御効果を高めているが、西側及び南側は谷や崖がないため、堀を幾重にも掘って防御効果を高めている。今回の調査は、今まで確認されている堀の位置について、補足できる調査結果となった。

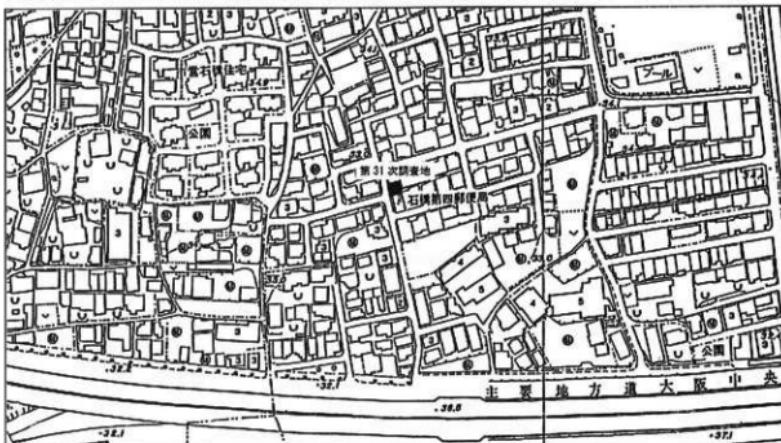
III 宮の前遺跡発掘調査

1. はじめに

宮の前遺跡は池田市石橋4丁目、住吉1・2丁目、豊中市螢池北町に広がる旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。その場所は、待兼山の丘陵より西方へ発達した標高約30m前後の洪積台地に立地している。この台地は、猪名川によって形成された沖積平野とは約10mの比高差を有する。周辺の遺跡としては、南方に弥生時代中期の方形周溝墓等が検出された豊島南遺跡、弥生土器、須恵器が採取された住吉宮の前遺跡が位置し、西方に高地性集落と考えられる待兼山遺跡、須恵器、瓦を生産した桜井谷古窯跡群が広がり、また、南方に当遺跡と同一の性格を有する螢池北遺跡、5世紀の掘立柱建物跡が検出された螢池東遺跡¹⁾、国府型ナイフ形石器が出土した螢池西遺跡²⁾等が挙げられる。

当遺跡は、昭和の初頭に地元の人々により石器や土器などが採取され、遺跡の存在が知られるようになったが、本格的な調査が行われておらず、遺跡の性格等は不明であった。しかし、昭和43、44年の中国縦貫自動車道建設に伴い発掘調査が実施され³⁾、その結果、弥生時代中期の方形周溝墓、竪穴式住居跡、土壙墓等の他、古墳時代の竪穴式住居跡、古墳跡が検出された。特に、当時検出例が少なかった方形周溝墓が多く検出されたことから、住居域と墓域が同時に把握できる貴重な例として注目を浴びることとなった。また、奈良時代の掘立柱建物跡、井戸、平安時代の掘立柱建物跡等も確認され、弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡として認識されるようになった。

その後、大阪府教育委員会、豊中市教育委員会、池田市教育委員会により、マンション等の開発に伴う事前調査で、遺跡の範囲も東西700m、南北900mと拡大している。また、昭和61



第11図 調査地位置図

年度の大坂府教育委員会による調査、平成元年度の豊中市教育委員会による調査で、国府型ナイフ形石器が出土し^④、当遺跡が旧石器時代までさかのぼることが判明している。

- 註 (1) (財)大阪文化財センター『豊池東遺跡現地説明会資料』1992年
(2) 豊中市教育委員会『茨津豊中 大理古墳』1987年
(3) 宮之前遺跡調査会『宮之前遺跡発掘調査報告』1970年
(4) 豊中市教育委員会『豊池北遺跡現地説明会資料』1988年

参考文献

- 橋高和明編『原始古代の池田』池田市立池田中学校地図部 1985年
富田好久『考古学上に現れた池田』『新版池田市史』要説編 1971年

宮の前遺跡 31次調査

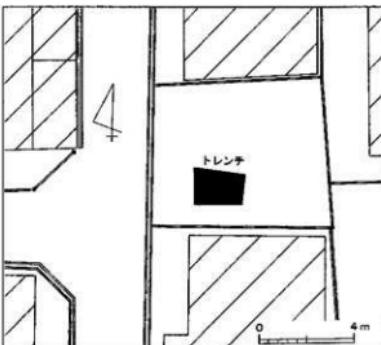
調査地は池田市石橋4-32-48に位置する。調査は個人住宅新築に伴い実施されたもので、本調査地は、今までの周辺の調査の結果、遺物包含層の存在が予想されるため、小規模なトレンチ(1m×2m)を設定し、調査を実施した。

調査の概要

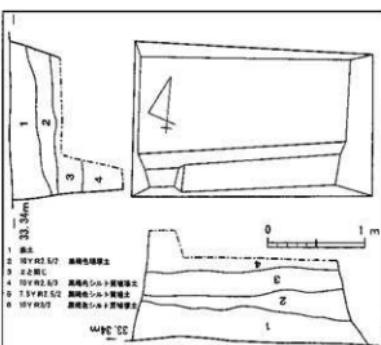
基本層序

層序は4層からなる。第1層は盛土、第2層は青灰色土、第3層は暗灰色土の遺物包含層、第4層は暗オリーブ灰色土の地山である。第3層の遺物包含層からは弥生土器が出土した。

遺構面と考えられる第4層からは遺構は確認できなかった。しかし、第3層からは若干の土器を確認したことから、調査区周辺に遺構が広がっていることが推測できる。



第12図 トレンチ位置図



第13図 トレンチ平・断面図



トレンチ全景（北から）



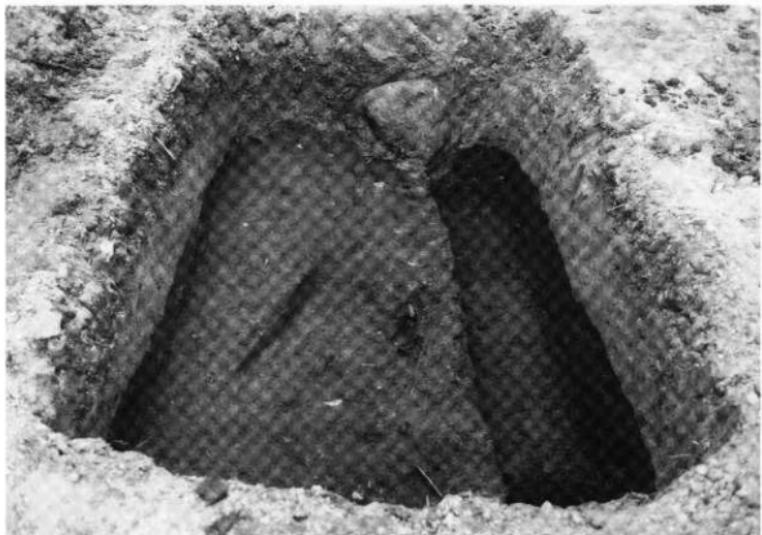
トレンチ全景（北西から）



トレンチ全景（北から）



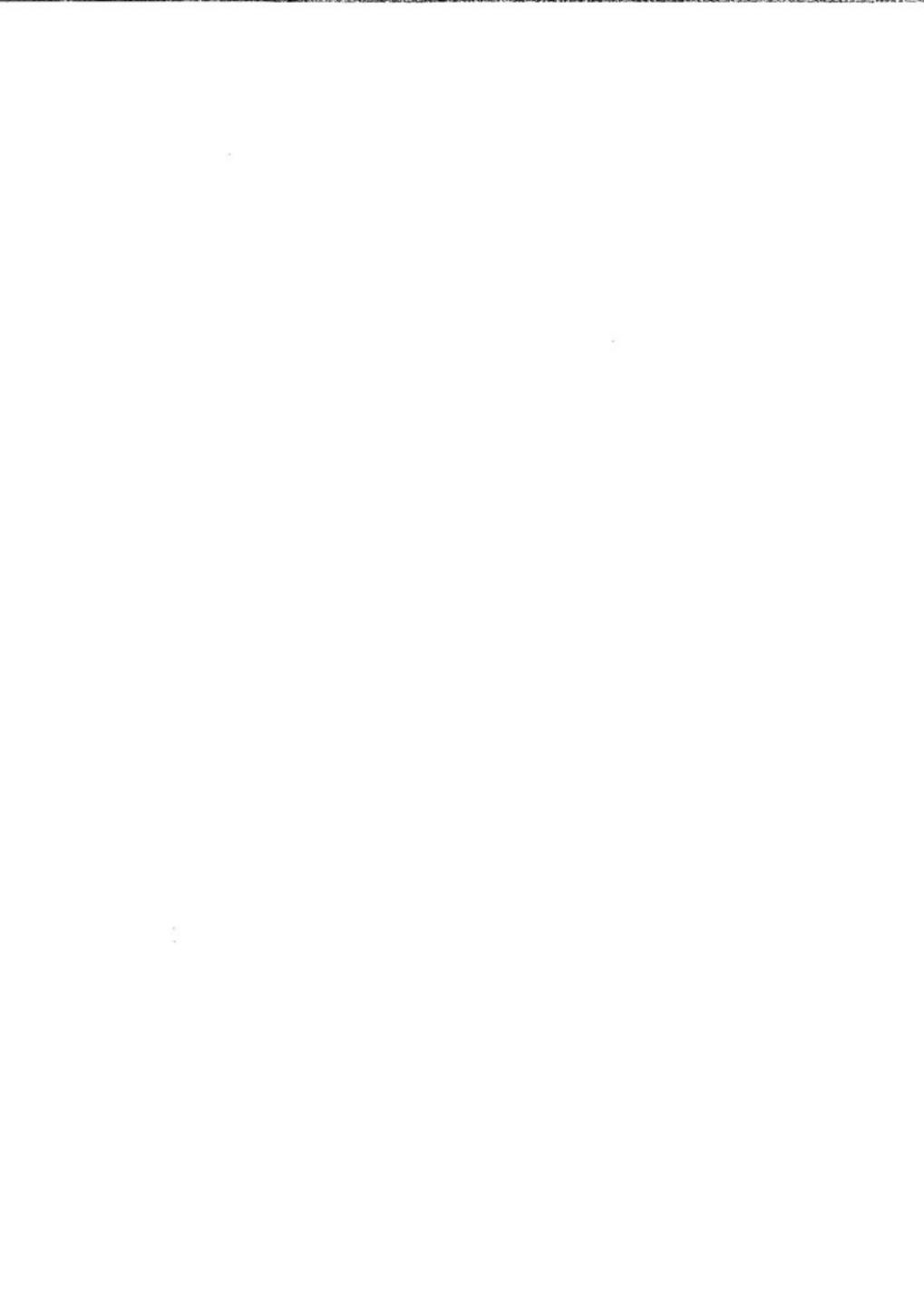
トレンチ全景（北西から）



トレンチ全景（西から）



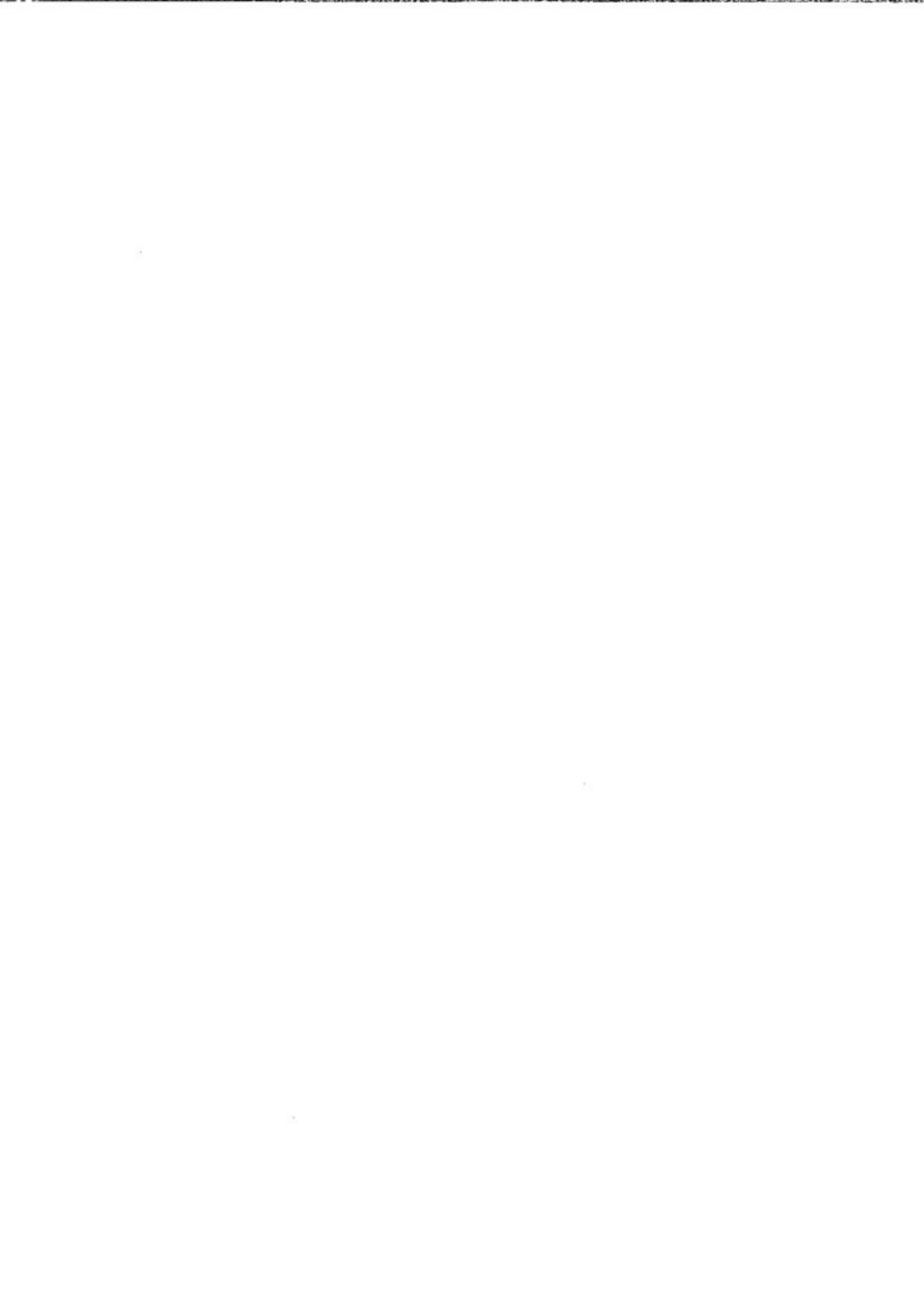
トレンチ全景（北東から）



報告書抄録

ふりがな	いけだしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	池田市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	池田市文化財調査報告第25集
卷次	
シリーズ名	池田市文化財調査報告
シリーズ番号	25
編著者名	中西 正和
編集機関	池田市教育委員会
所在地	〒563-8666 大阪府池田市城南1丁目1番1号 0727-52-1111
発行年月日	2000年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査の原因
		市町村	遺跡					
池田城跡 (第40次調査)	池田市建石町	272043	-	34°49'23"	135°26'01"	990614 990617	6m ²	個人住宅新築のための事前調査
池田城跡 (第41次調査)	池田市建石町	272043	-	34°49'22"	135°25'59"	20000228 20000303	6m ²	個人住宅新築のための事前調査
宮の前遺跡 (第31次調査)	池田市石橋	272043	-	34°47'51"	135°26'46"	991215 991217	2m ²	個人住宅新築のための事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
池田城跡 (第40次調査)	集落跡	弥生～中世	堀	-				
池田城跡 (第41次調査)	集落跡	弥生～中世	堀	弥生土器 土師器				
宮の前遺跡 (第31次調査)	集落跡	旧石器～中世	包含層	弥生土器				



池田市文化財調査報告第25集
池田市埋蔵文化財発掘調査概報

1999年度

2000年3月

発行 池田市教育委員会

池田市城南1丁目1番1号

編集 社会教育課 文化財担当

印刷 西村印刷株式会社